

平成28年1定 一般質問 開催状況

開催年月日 平成28年3月10日

質問者 民主党・道民連合 広田 まゆみ 議員

担当部課 総合政策部政策局

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>【再質問】 三 北海道の強みを活かす人材育成について (三) 重点の見直しについて 北海道の強みを活かす人材育成について伺います。、総合教育大綱の重点の見直しについて再質問いたします。</p> <p>今回の議会議論においては、子どもの貧困や、格差の課題など、子どもたちの就学支援に関する議論が中心となっていますが、今、先進国において、若者の雇用の問題は、重大なテーマであります。すべての子どもたちに就学機会の確保を図ることも重要ですが、何のために大学に進むのか、何のために学ぶのかを明確にする必要があります。大学を卒業しても、いわゆるサラリーマンなどとして安定した雇用が約束される状況では、残念ながらなくなりました。</p> <p>他国に例をみない労働法制の規制緩和などもその一因ではありますが、変化する社会の構造として、新たな雇用や新たな社会サービスを自ら作っていく人材育成を学びの基本におかない限り、北海道の地域が50年後、100年後も、持続可能で、豊かに発展し続けることはない、私としては、強い危機感を持っています。</p> <p>総合政策部長から、「教育大綱に掲げる取組方針に基づいて、教育関係者をはじめ保護者や地域の方々を含め様々な分野に関わる人々と広く連携し、北海道の未来に向けた人材育成に取り組んでまいる」とのご答弁をいただきましたが、この教育大綱は、多様な人たちと目的として共有するにはあまりにも総花的であり、地域の未来に、この教育大綱は、対応しきれていないのではないのでしょうか。</p> <p>改めて、大綱の見直しの考え方などについて、知事の所見を伺います。</p>	<p>【知事】 人材育成に関し、まず、教育大綱についてであります。本道の子どもたちが健やかに成長をし、大人として社会で自立して生きていくためには、お互いを思いやり、支え合う心を持つとともに、基本となるしっかりとした学力が必要と考えます。</p> <p>そのため、すべての子どもたちが経済的な環境に左右されることなく必要な学力を身に付けることができるよう取り組んでまいる考えであり、道教委と連携をして、教育大綱で掲げた社会で生きる力の育成など5つの柱に基づく取組を着実に推進をしてまいる考えであります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(四) 北海道の未来を拓く人財の育成について</p> <p>次に、北海道の未来を拓く人財育成について、今後の検討の方向性に関し、再質問します。</p> <p>若い人たちの雇用に関して、就業ニーズのミスマッチなどが指摘されてきました。本道の基幹産業である第一次産業の担い手づくりのみならず、第一次産業の付加価値向上のために、食産業や木材加工に関わる職人や料理人をはじめ、そうしたキャリア形成にも、子どもたち、若い人たちの選択肢として光をあてていくことが重要です。大綱において、知事自らが、子どもから大人までの産業人材育成を大きな柱の一つとして掲げられております。いわゆるコミュニティ・スクール、学校運営協議会の推進よりも、私は、当面の重点として取り組むべき課題だと考えます。</p> <p>再度、重点の見直しの方向性に関し、学齢前からの産業人材育成の重要性についての認識と知事の所見を伺います。</p> <p>【指摘】</p> <p>指摘をさせていただきます。「総合的に」という言葉をよく使いますが改めて考えてみました。実は、私は、今回知事の執行方針や、教育大綱を土台として道庁組織の皆さん、特に総合政策部の皆さんと政策議論をしたいと思ったのですが、私の力不足でかみあった議論にならなかったと思います。また、早口で大変失礼をいたしました。</p> <p>今回、知事が掲げられた大きなキーワードは、人口減少危機突破です。これを1年貫かれるのか、4年貫かれるのかわかりませんが、選挙で選ばれた知事が選んだキーワードですから、道庁組織の皆さんは、全力で向き合えばなりません。しかし、その問題の本質を問うのは、私たち議会の役割もそうですが、職員の皆さんの仕事でもあります。問題の捉え方が不十分だったり、誤ったりすれば、間違った意思決定が導かれます。</p> <p>ちょっと身近な事例でお話をさせていただきたいのですが、例えば、「職場にたびたび遅刻する」という問題を抱えた人がいたとします。私たちは、「目覚まし時計を増やす」という解決策を安易に選んでいないでしょうか。効果があがらなければ、さらに、1個、2個、3個と目覚まし時計を増やしたりする。</p> <p>しかし、問題を根本から考えてみると、問題は時間どおりに起きられないことです。問題の原因は、睡眠時間が少ないことであったり、では、それはなぜかという、例えば、遅くまでゲームをしているため。そうすると、問題解決の鍵は、目覚まし時計を増やすことではなく、23時以降は、例えば、ゲームをしないと、そのためにどうするかが、真の問題解決になります。そして、安易に目覚まし時計を増やすという解決策さえ、道庁においては、もう限界に来ています。お金がないから、目覚まし時計を3個じゃ</p>	<p>〔知事〕</p> <p>最後に、北海道の未来を拓く人材の育成についてありますが、豊かな自然環境に恵まれた魅力ある本道にあって、子どもたちが夢や目標を持ち、その実現に向けて自らの可能性を磨き、健やかに育っていくことができるよう、私たち大人は、子どもたちの成長をしっかり支えていくことが重要であります。</p> <p>こうしたことから、すべての子どもたちに社会で自立して活躍できる力を培うとともに、職業に対する意識の涵養を図りながら自らの夢に向かって確かなライフデザインを描き、北海道の活力ある未来を担う人材となってもらえるよう教育関係者をはじめ、保護者や地域の方々と連携して取り組んでまいる考えであります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>なくて、1個にするというのが、ここ数年の道庁組織の対処の仕方ですが、そうではないものさし、あるいは、言葉による方向づけによって、本当の問題はどこにあるのかを問うのが、総合政策部の役割ではないでしょうか。私としては、人口減少対策の本質として、まだ、精査は必要ですが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化に対応して、厳しい地域経営を支える人材を育成し、あるいは、呼び込むこと。 ・自らの地域の良さ、宝、強みを、地域の力に発展していくこと。 <p>その大きな二つにあると考え、企業家精神教育と、文化資本という言葉をおきました。もちろん、この社会にこの道しかないということはありませんから、これについていろいろな議論をすることが道議会の役割であると考えています。</p> <p>そして、文化資本という言葉を選択したのは、もう一つ理由があります。文化には、変化の兆しが見えるからです。北海道博物館がリニューアルし、新館長のもとで、さまざまなチャレンジがされています。北海道遺産の取組も、NPO法人となり、企業との協働で、道民の皆さんから確か1000万円を超える寄付が毎年集まっていると伺っております。日本遺産の認定申請の事実上の出遅れなど、検証すべき課題は山積していますが、今の現実の中で、既に起こっている未来、変化の兆しに着目して、そこに光をあてていくことも、総合政策部の重要な役割であると考えます。是非、皆さんお一人一人が日常業務の中から少し一瞬でも顔を上げて、私たちは、目覚まし時計を増やす議論をしているのじゃないのか、目覚まし時計の数を争う議論をしているのじゃないかということをしっかり考えていただくことを、道庁組織全体に考えていただくことを指摘をいたしまして、私の質問を終わります。</p>	